

令和4年度 第2回 総合教育会議 会議録

開催日時	令和4年11月18日(金) 午後1時30分から午後2時50分				
開催場所	本庁舎 602・603会議室				
会議出席状況	市長	相馬 憲一	出席		
	教育長	篠山 充	出席		
	教育委員	深澤 道昭	出席	川上 聖子	出席
		小林 朋子	出席	森 泉	欠席
		渡邊 英憲	出席		
	事務局	教育部長	大森 忠夫	教育総務課長	高野 浩行
		学校教育課長	明澤 伸宏	生涯学習課長	吉成 均
		文化振興課長	長 竜也	スポーツ振興課長	熊田 明美
		国体推進課長	大島 実	教育総務課 (事務局)	伊東 佳子
	次 第				
1	開 会				午後1時30分～
2	あいさつ				市 長
3	議 題				
	(1) 部活動の地域移行について				
	(2) 東山道駅路発掘調査について				
4	その他				
5	閉 会				午後2時50分
6	会議要旨				次のとおり



令和4年度 第2回 大田原市総合教育会議 発言要旨

令和4年11月18日（金）

開会 （午後1時30分～）

○教育総務課長

定刻となりましたので、ただいまから、令和4年度第2回大田原市総合教育会議を開会いたします。

本日の進行を務めさせていただきます、教育総務課長の高野でございます。よろしくお願いいたします。

初めに、本会議の主催者であります、相馬市長よりあいさつを申し上げます。

○市 長

（市長 あいさつ）

大田原市総合教育会議の開催にあたり、教育委員の皆様にはご多忙の中ご出席賜り心から御礼申し上げます。また、本市の教育行政につきまして日頃より特段のご理解とご協力をいただき重ねて御礼申し上げます。

教育委員会におかれましては、篠山教育長が7月1日に就任され、また、小林委員、渡邊委員が10月1日に再任されました。今後とも本市の教育行政の推進にお力添えをいただきますようよろしくお願いいたします。

本会議は私と教育委員の皆様が十分な意思疎通を図り、連携して教育行政に取り組むために設けられた会議でありまして、皆様からご意見をいただきながら、本市の教育の課題やあるべき姿を共有し、次代を担う子どもたちが健やかに成長できる教育環境の実現を目指して参りたいと考えております。

さて、本日の議題ですが、2件を予定しております。

初めに部活動の地域移行についてでございます。栃木県教育委員会事務局スポーツ振興課競技力向上対策室指導主事の大熊良裕様にはご多忙の中お越しいただき感謝申し上げます。大熊様からは部活動の地域移行の概要についてご説明をいただき、その課題等を共有し、皆様からご意見をいただければと思っております。

2件目は東山道駅路発掘調査についてでございます。文化振興課文化財係鈴木志野学芸員より湯津上地区で実施して参りました古代の幹線道路「東山道駅路」の発掘調査結果について報告をしていただきます。

本日は有意義な会議となりますよう皆様には忌憚のないご意見をお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○教育総務課長

ありがとうございました。

それでは、次第の3 議題について協議していただきます。ここからの議事進行は、大田原市総合教育会議設置要綱に基づき、相馬

市長にお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○市長

円滑な議事運営に努めさせていただきたいと思ひますので、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

本日の議題は、次第3に記載のとおり2件でございます。

まず初めに、(1)部活動の地域移行について、栃木県教育委員会事務局スポーツ振興課 競技力向上対策室 指導主事 大熊様からご説明いただきます。

○大熊指導主事

(部活動の地域移行について説明)

○大類指導主事

(市の現況と課題について説明)

○深澤委員

平日指導と休日指導の連携について補足説明をお願ひいたします。

また、大田原市には野球部門で大田原ボーイズが活動しておりますが、地域移行の受け皿とはそのようなイメージでよいでしょうか。

○大熊指導主事

単一スポーツクラブが受け皿となることは可能性として十分にあるかと思ひます。複数の学校の野球部の生徒を集めてチームとして大会に参加することも可能になってくるかと思ひます。

地域移行パターンとして、総合型地域スポーツクラブが受け皿となるケース、拠点校型としてA中学校ではバレー部、B中学校は野球部で活動し、それぞれに複数の学校の生徒が集まって活動するといったケースも想定されております。また学校設立型として学校の中でPTA組織などが母体となって活動するといったことも想定しております。

○大類指導主事

平日の学校指導者と休日の地域指導者が別の方になった際に課題が生じるだろうということが部内の会議でも話題としてあがりました。

具体的には指導者の指導観がずれてしまったとき一番困るのは子どもたちだろうということで、県から出る方針を確認し、研修・共有する場があってもよいのかなという話が出ております。

また、学校教員からの希望によって兼職兼業も想定されますので、そういった点も丁寧に対応する必要があります。

○深澤委員

なかなかハードルが高いですが、先進事例を研究しながら進めていただきたい。

○渡邊委員

私は小中学校の保護者なのですが、ほとんどの保護者も児童生徒も地域部活動について理解しておらず、周知がされていないという

のが現状だと感じております。

働き方改革の面からも重要だと考えておりますが、子どもが減って部活動自体が減る、部活動はあるけど大会に参加ができないという状況になっている学校もあるので、クラブチーム化して臨めるのは素晴らしいことであると思います。

一方で、先日テレビか新聞で渋谷区の例が紹介されましたが、大田原市は距離的制約があるので渋谷区のように、放課後にすぐに集まることはなかなかできません。

また、先日新聞にもありましたが親の収入とスポーツ能力が比例するというような状況になってしまっているようです。収入の面で困らない場合でも、共働きだと送迎の負担が課題として必ず出てくると思います。拠点校型だとしても自転車ではいけないので送迎が必要になり、市がデマンドバスを出すとなると市の負担が発生します。

人口の絶対数が少ない地域なので指導者の確保も難しいという点もあり、移行する努力はしていかなければならないとは思いますが、簡単に移行できる地域ではないのではないかとというのが、この地域に住むものとしての感想です。

○小林委員

これまでは大会参加は学校単位でしたが、クラブチームで参加する形式もとなると、子どもの所属というのはどうなるのでしょうか。学校に地域の方が来て指導するというように受け止めていたのですが、大会への参加はどのようになっていくのかという点をお聞きしたいと思います。

○大熊指導主事

地域と学校の両方に所属する場合、どちらか一方からしか大会に参加することはできないというルールを作ることを中体連では検討しています。

生徒が大会に参加する際には生徒・保護者がどちらかを選択することになります。

○渡邊委員

柔道道場、スイミングクラブ等のクラブチームで活動している子もいますが、これらのクラブチームが休日部活動の受け皿となった場合、指導者に対して謝礼が発生するのでしょうか。

○大熊指導主事

正直に申し上げますと難しいのではないかと思います。

地域に移行する際に、市町の方針が落とし込まれた活動であれば補助の対象になるかと思いますが、すでに収益事業を行っている団体に補助するというのは国の趣旨とはずれてくるのかと思います。

○川上委員

部活動が起こったときの歴史背景はどうだったのか、それが時代を経て今の部活動の考え方はどういうものなのか、それを明記したうえで、今後の部活動の目的、意義、方法がはっきりしないと。部活動とはどうあるべきか分かったうえで前に進んでいかないと方向

性がぶれてしまうのかなと思います。私たちもそれが明確に分かれれば意見が出せるのかなと思います。

懸念しているのは、自己負担が発生するということで家庭間の格差があると思います。収益の大きいクラブから収益の小さなクラブに移るとなった場合、各家庭を始め様々なところで負担が発生しますので、その面での法整備も必要かなと感じました。

○市 長

どういう部活動を選択するかということについて、合同部活動に参加したいとなれば、移動手段については考えていかなければならない大事な課題の一つと考えております。

少子高齢化の中で部活動に参加する生徒が減っていて、野球などでは連合チームで大会に参加しているということですが、練習は土曜または日曜の一日しかできなくなり、それでは高みを目指すことは難しいという問題もでてきてしまうと思います。そうするとうまくなりたい、強くなりたいたとなるとクラブチームに行くことになってお金がかかってしまう面がある。

ご説明をいただいて多くの課題があるなと感じているところでございます。

一点お伺いしたいのが、文科省の予算は3ヶ年に集中するのか、それ以降も継続して支援いただける予算なのか、確認させていただければ。

○大熊指導主事

改革集中期間として3年間は支援していただけるのではないかと捉えておりますが、令和8年度以降どうなるかは不透明です。

国の動向を捉えながら、県の状況も踏まえてなるべく各市町の皆様のご支援ができるよう努めていきたいと考えております。

○教育長

大田原市の中学生はほぼ100%部活動に加入しており、部活動加入率が下がっているというのは大田原市では当てはまらないかなと思っております。

子どもたちは非常に積極的に部活動に参加しており、教育的効果も高いと思っております。先生方も部活動を通して子どもたちと人間的なつながりを形成していますし、子どもたち同士も部活動の中で人間関係を作る力もつけていて、学校教育において重要な役割を占めていると思っております。

先進校のアンケートの中に送迎と費用の設問がありましたが、これによりますと2割の方が参加しないという可能性が出てきます。私としては部活動に参加したい子は必ず参加できる、そういう環境を整えてあげたいと考えています。市としても検討して行きたいと思いますが、県としても考慮していただけるとありがたいと思います。

○市 長

次に、議題（2）東山道駅路発掘調査について、事務局の説明をお願いいたします。

- 鈴木主査 鈴木主査 説明
- 市 長 事務局の説明が終わりましたので、協議に入ります。ただいまの説明に対し、質問やご意見などはございますか。
- 渡邊委員 東山道駅路はなぜ道として残らなかったのでしょうか。  
また、今後どのような展開を予定しているのか追加説明をお願いいたします。
- 鈴木主査 古代の道路は律令国家のもとで作られたものだが、国家勢力が衰え地元勢力が強くなった中世時代には中心地の変更などの理由により道路を別の場所に整備することが多くあった。そのため古代道路が現代まで使われている例はほとんどない。中世時代の道路は大規模なものが多くあったので、現代も使われている例が非常に多い。  
前回調査で確認された溝に加え、今回の調査でも新たな溝が確認できたので、溝の年代を確定していきたい。また、区画中心部にあった建物がどのような性格の建物なのか調査を進め、周辺エリアに点在する施設の判断基準としたい。さらに、東山道駅路の道筋がどのように大田原市を縦断または横断していたのか調査していきたい。
- 深澤委員 まだまだ発掘しなければならない地区がありますので、市長には十分な予算措置をご検討いただきますよう何卒お願いいたします。
- 市 長 昨年から予算を増やしていただきましたが、来年度も今年度と同程度の予算で調査を進めていただければと考えております。
- 市 長 ほかに質問や意見はないようですので、以上で議題に関する協議を終了させていただきます。  
滞りなく議事を進行することができましたことに感謝申し上げます。  
ここからの進行は事務局をお願いいたします。
- 教育総務課長 貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。  
次に、次第の4 その他 に移りますが、皆様から何かございますか。
- 教育総務課長 ありがとうございました。  
以上で、第2回総合教育会議を閉会いたします。

閉会 (午後2時50分)